



夏編

舳先（へさき）で腰をすえ、下半身に軸をつくる。上半身を一回転するほどにひねり、遠心力を利用して放たれた網は、美しい円を描きながら広がり、川面に落ちた。

伝統の技「投網」。船上で網を打つのは、東京都江戸川区の江戸川投網保存会の男たち。今

伝統の「投網」未来に残せ

1



年五月、投網の技術を残そうと立ち上がった十人だ。大半が屋形船を出す船宿関係者で、二十歳から四十六歳と意外に若い。小島智彦さん（四三は子供のころ、梶子（操船者）をしたがら父親の投げ方を見て、覚えた。

「陸に上がって、たっぷり水が入ったバケツを網代わりに振って練習した。こぼすと、竿（さお）でたたかれてねえ」
網を打つコツは遠心力の使い方だが、同じように見える投げ方も人によって微妙に違うという。

「いまだに親父には、かなわないね」

網を手繰ると、海ではコハダやスズキ、川ではコイやウグイなどの銀鱈（ぎんりん）が躍る。

伝統を守ることは川の環境を守っていくこと。男たちの願いを込めた網が青空に広がり、しぶきを上げた。

（写真報道局 頼光和弘）